

脳・心臓・血管

ワースト脱却処方箋

from 獨協医大



上嶋亨講師

不整脈

今回は、心房細動（不整脈）とそれによって生じる合併症についてお話しさせていただきます。と思います。

68歳の男性が労作時の息切れと動悸を訴え、来院されました。心電図では毎分心拍数120回の心房細動が認められ、心房細動による心拍数の著しい増加が症状に關与していると考えられました。

症状は半年ほど前から認められており、波があったため様子を見ていたそうです。今回の症状も3日ほど前から、男性は少なくとも約半年前から発作性心房細動を繰り返していることが推測されました。

そのため心房性脳梗塞と心不全予防のために抗凝固療法と心拍数のコントロールを目的とした内服を開始し、根治的な治療はその後に行っていく方針としました。この患者さんの場合、幸いにして動悸という症状があつ

予防は困難、早期発見を

ため、病院を受診することになったわけですが、動悸という症状がなかった場合、どうなっていたでしょうか。

心房細動の患者のうち、約4割が症状を認めない無症候性心房細動といわれています。心房細動を発症していることに気付かないまま時間が経過していった場合、心房性脳梗塞が最初の症状として認められる



イラスト/小林隆一 SHIMOTSUKE GRAPHICS

ことも考えられます。実際に脳梗塞で入院された患者のうち、約2割は実際に心房細動が認められたか、もしくは以前に心房細動を指摘されたことがあったといわれています。

これを予防するためにはどうすればいいでしょうか。まず一番大事なのは心房細動にならないようにすることですが、心房細動は器質的な疾患が

なかったとしても、加齢によって罹病率が上昇していくといわれています。また脱水や精神的・肉体的なストレスなどの要因でも容易に発症するといわれています。

従って完全に予防するのは難しいと考えられますので、次に大事になってくるのが心房細動の早期発見になってくると思

います。これには症状の有無が大きく関わってきますので一概には言えませんが、健康診断で心電図を測るだけではつきりすることもありません。

そうでなくても自分や家族に脈に触れてもらうことで脈の乱れは分かると思います。これだけでだいぶ変わってくると思

いますので、ぜひ自分の脈に触れてみて、「おかしいな」と思ったら近くの病院に相談してください。

（獨協医大心臓・血管内科学講師 上嶋亨）
（毎週金曜日掲載）